

平成29年度 やまなし エコ通勤・エコ通学 トライアルウィーク 実施状況



1. 参加申し込み状況

申し込みと現在の通勤状況

申し込み	従業員数	マイカー通勤
20	8,264	5,945

- ・エコ通勤トライアルウィークへの参加申し込みのあった事業所数は20事業所。
- ・参加事業所に勤務する8,264人のうち5,945人(71.94%)が現在マイカーで通勤。

ステップ1 エコ通勤PR取り組み状況

メール等	掲示等	会議等	個別	その他
11	12	5	6	1

- ・エコ通勤のPRは17箇所全ての事業所で実施。
- ・PRの方法は、各事業所で、効果的な方法を選択してもらい、内訳は

「メール・イントラネットなどで案内」	11事業所
「掲示物・職場内回覧などで周知」	12事業所
「会議・朝礼などで呼びかけ」	5事業所
「マイカー通勤者に個別に働きかけ」	6事業所
その他（担当職員が各課等を訪問し呼びかけ）	1事業所

ステップ2 エコ通勤転換予定者数

徒歩	自転車	公共交通	その他	計
174	195	174	129	672

- ・期間中は参加事業所のマイカー通勤者5,945人のうち、672人(11.30%)がエコ通勤にチャレンジする予定。

- ・エコ通勤の種別ごとの転換者数は

「徒歩通勤にチャレンジ」	174人(25.89%)
「自転車通勤にチャレンジ」	195人(29.02%)
「公共交通通勤にチャレンジ」	174人(25.89%)
「その他のエコ通勤にチャレンジ」	129人(19.20%)
- ・「その他のエコ通勤」の129人は「マイカーによる乗り合わせ通勤」を実施予定。

ステップ3 ワンコインエコチケット配布数

チケット計	実人数
1,078	286

・配布対象者別内訳

	チケット	実人数
公共交通にチャレンジ	692	93
自転車通勤にチャレンジ	386	193
計	1,078	286

- ・昨年度に引き続き、自転車通勤にチャレンジする方に雨天対応用として1日分のエコチケットを配布。

期間中、1乗車100円で路線バスを利用可能な「ワンコインエコチケット」の配付枚数は1,078枚。

うち、バス通勤にチャレンジする方の分が692枚、自転車通勤にチャレンジする方の雨天のバス対応分が386枚

- ・エコチケットを配付する実人数は286人で、うちバス通勤にチャレンジする者が93名、自転車通勤にチャレンジする方が193名

2. 期間中の取り組み状況

バス事業者からのエコチケット利用状況

3月12日	38
3月13日	43
3月14日	41
3月15日	45
3月16日	74
3月17日	13
3月18日	0
合計	254

- ・期間中のワンコインエコチケットの利用数は254枚で、配付数1,078枚の23.6%。
- ・エコチケット利用率が低かったが、自転車通勤にチャレンジする方に一日配布したチケットが利用されなかったことが大きな要因と考えられる。

参加事業所からの実績報告

	徒歩	自転車	公共交通	その他	計
3月12日	74	71	66	29	240
3月13日	73	72	71	35	251
3月14日	73	66	67	51	257
3月15日	74	78	74	53	279
3月16日	92	72	79	75	318
3月17日	12	9	3	7	31
3月18日	8	6	3	4	21
合計	406	374	363	254	1,397

- ・期間中にエコ通勤に取り組んだと報告のあったのは延べ1,397回。
- ・参加申し込みのあった672人が、期間中に平均2.1回のエコ通勤を実施した。

参加者からの代表的な意見

肯定的な感想

- ・通勤中に地域の方と触れ合ったり、季節を感じる事ができた。
- ・通勤中に読書をするなど、時間を有意義に使えた。
- ・公共交通機関の利便性を改めて実感した。今後利用したい。
- ・朝から体を動かし、スムーズに仕事に入ることができた。
- ・環境や健康のために良いので、今後も続けていきたい。運動を始めるきっかけづくりにもなった。
- ・乗合通勤時、同乗者と会話が弾み、新鮮だった。

否定的な感想

- ・電車・バス等の連絡が悪いため、通勤時間がかかる。
- ・通勤にちょうど良い交通機関がない。
- ・公共交通機関を利用すると、費用も時間もかかる。
- ・自転車で走るスペースがなく、危険。駐輪場のスペースも不足していた。

転換への課題

- ・公共交通機関の利便性（朝・夜便数、運行時間の拡張）の向上がないと、現状ではマイカーからの転換は難しい。
- ・勤務地・居住地付近に公共交通機関がなく利用が困難。
- ・自転車走行レーンや駐輪スペース、歩道の確保が必要。
- ・通勤手当等でエコ通勤を優遇するとよい。
- ・公共交通機関は費用が高い。3割程度の値下げが必要。
 - ・公共交通機関は、料金の高さがネックとなる。